

Ⅱ. 自立活動支援部

「チェックリストを活用した実態把握」に基づく
自立活動の実践事例研究

「チェックリストを活用した実態把握」に基づく

自立活動の実践事例研究

自立活動支援部

1. はじめに

本研究の目的は、一昨年より自立活動支援部が導入している「チェックリストを活用した実態把握」について、今後の本格的な全校実施に向け、実践活動への有用性を確かめるものである。今回は対象児童生徒のチェックリストから導き出された課題群をもとに、担当の教員が自立活動の視点から仮説を立て、指導実践を実施し、振り返って評価するまでのプロセスをまとめ、分掌内での実践事例研究会にて報告を行った。

チェックリストは「実態把握をすること」のみが目的ではなく、その「実態把握したこと」を日々の指導・支援に結び付けることが大きな目的である。どの児童生徒にも実態把握に基づいた適切な指導・支援が PDCA サイクルで取り組むことができるようになることをめざし、実践事例の検討を行った。

2. 「チェックリストを活用した実態把握」の概要

本校が導入を試みている「チェックリストを活用した実態把握」の概要は以下の通りである。

【①広島県立福山特別支援学校「重度・重複障害児のアセスメントチェックリスト」Ver.9.0】

重度・重複障害児の実態把握は、観察・聞き取り・各種検査が中心となるが、その多くが児童生徒には活用しにくいという状況から、より細やかなチェックリストの必要性を感じ、平成 26 年からリストの作成を開始。令和 4 年度に Ver.9.0 を発行。

目的 : 重度・重複障害児の認知及びコミュニケーションに関する力のアセスメント

対象発達年齢 : 0 ヶ月から 24 ヶ月

分野・領域 : コミュニケーション—「要求表出」「人間関係」

認知 (I～IV段階) —「聴覚・言語」「触覚等」「視覚等」

認知 (V～VII段階) —「言語理解」「言語表出」「視覚・操作等」「数量・概念」「ADL」

補助項目 : 健康・身体の動き等—「健康の保持」「表出手段 (表情・発声等)」

「表出手段 (上肢の動き)」「姿勢保持・移動能力」

【②大阪府立住之江支援学校「支援のための発達アセスメントチェックリスト (A²)」】

子ども・支援者の両方にとって役に立つ「個別的教育支援計画」の様式として作成されたツール。

A²とは、評価のアセスメントの A と支援の配慮や調整という意味のアコモデーションの A とで、2つの A が内包されているという特徴を表す。

目的 : 知的な発達の観点と学習指導要領に対応した「支援のための発達アセスメント」

対象発達年齢 : ① 0～5 歳程度の知的発達 ② 小学生程度の知的発達 ③ 10 歳以上の知的発達

領域 : ①—「情動」「注意・多動・衝動性」「対人関係」「理解言語 (聞く)」「表出言語 (話す)」「読む」「書く」「数量」「作業 (微細運動)」「粗大運動」「身辺自立」

②—「情動」「注意・多動・衝動性」「対人関係」「理解言語 (聞く)」「表出言語 (話す)」「読む」「書く」「数量」「作業 (微細運動)」「粗大運動」

③—「共感性・対人関係」「衝動性・ルールの遵守」「セルフエスティーム」「読む」「書く」「数量」「社会参加」

3. 実践の流れ

①チェックリスト（広島県立福山特別支援学校「重度・重複障害児のアセスメントチェックリスト」大阪府立住之江支援学校「支援のための発達アセスメントチェックリスト（A2）」活用に向けての説明研修

↓

②各学部、学年、クラス毎のチェックリストを活用した実態把握

↓

③実態把握から抽出された課題設定についてのワークショップ（各クラス単位）

↓

④保護者説明用書式「総合的な子ども像」への記述・読み合わせ、保護者説明（各クラス単位）

今回の事例については、③のワークショップ後からスタートし、ワークショップでの課題設定の内容・研究を基に、さらなる実践をおおよそ1学期間において研究したもの、そして実践事例研究会での発表、討議、考察を踏まえた内容となっている。

4. 実践事例報告

(1)「中学部」

中学部

3年生



基本情報



《短期目標》

- ・周囲の働きかけに表情や声、動きで応え、自分の気持ちや思いを相手に伝え、交流を深める。
- ・ICT機器を活用して手の操作性を高め、興味の幅を広げる。
- ・健康に留意し、楽しく学校生活を送る。

《長期目標》

- ・人やものとの関わりを深め、興味関心の幅を広げ、楽しく学校生活を送る。
- ・自分の気持ちを声や手の動き、表情などで人に伝える。

《保護者の要望》

- ・身体、心、脳にどんどん刺激を与えて、感じることを表に出せるようになってほしい。

実態把握

- ・音が鳴るおもちゃや楽器などを握って鳴らす。
- ・左手優位
- ・友だちや先生などの活動をよく見ている。
- ・全般的に穏やかでマイペース
- ・楽しいときや退屈な時、空腹時などに声を出すことがある。

参考に（実態把握）



楽器を演奏している様子



左手をしっかり動かしている様子



友だちの活動を見ている様子

- ・左手で鉢を握りしめて、楽器を奏でている様子。（银杏祭）
- ・左手で握りしめたトントン相撲専用スティックでトントンしている様子。
- ・友だちが楽しく活動している姿をにこやかに眺め、生徒本人も楽しさを感じている様子。

仮説、課題

体調が整うことで力を発揮することができる。



覚醒状態を高める

「見たい」「触りたい」と思う気持ちを増やす。



興味関心を広げる

どんな状態が見やすいか、姿勢が整っているか。



見る力を高める

- ・課題整理シートを活用して仮説を検討、課題を設定した。

手立て

覚醒状態を高める



平衡感覚、固有覚を刺激する

興味関心を広げる



本人の操作しやすいものを準備する
見せ方や環境整備を工夫する

見る力を高める



視線入力装置の高さを調節するなど、
見やすい状況の条件を整える
平衡感覚、固有覚を刺激する

- ・課題に対して本児の実態を含めて手立てを検討した。

参考に（手立て）

※活用した教材・教具、絵カードなど



オーシャンスwing
ヨガボール



あぐら座位補助具



視線入力装置

- ・課題解決に向けて設定した手立てに必要な教材を準備した。

取り組んでいる様子など



オーシャンスイング



友だちと一緒にあぐら座位



視線入力

- ・大きく体が揺れることで、表情が和らいだ。
 - ・友だちと一緒に座ることで、好きなおもちゃを注視するだけでなく、友だちの様子も見ようとしていた。
 - ・アプリを使用して教員の写真を注視することができた。
- 加えて、担任や身近な教員をより注視する様子などから他者との関係性を意識している場面もみられた。

経過観察

- オーシャンスイングや減圧した小さいヨガボールを使用して体を揺らすことによって表情が和らいたり、笑顔が見られたりし、覚醒状態が高まった。
- 近くで一緒に活動していた友だちのことを興味関心を持って、よく見ていた。前期から触覚を高めるために簡単な因果関係理解に取り組んでいたのが土台となったことが考えられる。
- 視線入力装置を利用したとき、関係性ができている教師の写真をよく見ることができた。また、動画で声を聞いたときには手が動くこともあった。
- 覚醒状態が高く、姿勢が整ってるときはヘッドコントロールができ、よく見ることができていた。

今後に向けて

●覚醒状態を高めるために、平衡感覚や固有覚を刺激する活動を継続していく。

●触覚を高めるために簡単な因果関係理解に取り組んでいたことが、友だちや教師をよく見る土台となっていたと考えられるので継続的に取り組んでいく。また、友だちと一緒に活動する場面を増やしたり、教師との触覚から共感につなげるなど関係性作りを大切にしたりする。

【報告会より】

- ・優位ではない右手の使い方が大切である。背中をしっかりとほぐすことで肩から動かしやすくなる。

福山方式 参考資料のご紹介

＜課題整理シート(参考資料①)＞

- ・課題として設定した項目についての指導内容などを分析してまとめ、具体的な指導目標を設定するための表です。

＜コミュニケーションに関するプロフィール表(参考資料②)＞

- ・各領域の児童生徒が到達している発達段階を網掛けし、「課題とする項目」に関連したキーワードに下線を引くことで、認知・コミュニケーションに関する力の全体像をわかりやすく把握することができ、指導のポイントとなるキーワードを整理し、明確化することができます。

課題整理シート

学部・学年

中学部 3年生

◆指導内容記入表

分野	領域	発達段階	領域番号	課題とする項目	具体的な学校場面	支援・留意点
コミュニケーション	要求表出	Ⅲ	17	支援者の声掛けに応じ るように声を出す。	挨拶など声をかける と、声を出し返答する ことが多い。	・顔の正面から話しかける。 ・すぐに発声しなくてもしばらく待つよ うにする。
	人間関係	Ⅲ	17	担当の支援者に対し て、自分から視線を向 けたり声を出したりす る。	授業中、教師に眼を向 けたり、追視したりす る。	・覚醒している時は、顔を動かしてよく 見るので、言葉かけを多くしたり、絵本 を読んだりゲーム等をしったりするよ うにする。
認知	聴覚・言語	Ⅲ	21	音や声が出た方向に、 顔を向けたり、眼を向 けたりする。	友だちや声をかけられ た人の方を向くことが ある。	・言葉かけを多く行う。 ・やりとりをするために、自発的な声や 動作を待つようにする。
	言語理解					
	言語表出					
	触覚等	Ⅲ	29	自分から机や床を叩く 行為を繰り返す。	暇な時に左手で机をト ントンと叩くことがあ る。おもちゃなどを 持って机にトントンも する。	・正面から言葉かけを行う。 ・好きなおもちゃを渡したり、遊びに 誘ったりする。
	視覚等	Ⅲ	22 23	おもちゃに視線を向け ながらそれで遊ぶ。 物に手を伸ばし、触れ る。	左手で物やひもを握る と、見ながらトント ンとする。 机に物を置くと、つか もうとする。	・日頃から手や腕のストレッチを行う。 ・新しい物に変えたり、位置を変えたり して、興味関心を引き出すようにする。
	視覚・操作等					
	数量概念					
ADL						

◆コミュニケーションに関するプロフィール表(Ver.8.0対応)

- 到達している発達段階は網掛けにする。
- 課題には、下線をつける。

月 齢	段 階	コミュニケーション		認知				
		要求表出	人間関係	聴覚・言語	触覚等	視覚等	数量・概念	ADL
0	I	不明確な表出	人の動きかけによる快反応	聴覚刺激への気付き	触覚・固有覚・前庭感覚刺激への気付き	視覚刺激への気付き		
2	II	明確な表出 大人への注意	声への快反応 大人への注意	音への快反応 音の変化への気付き 音への快反応	感觸の変化への気付き 手・物への気付き	注視 追視		
				聴覚刺激への注意の高まり				
4	III	期待反応 声のやりとり 応答性のある行動 大人への積極性 物への働きかけ	特定の支援者への気付き 大人への積極性 感情の分化	声の変化への気付き 音の方向性への気付き 特定フレーズへの気付き 音楽への快反応	把握 単純な操作 リーチング 単純な因果関係の理解	物への気付き(視覚) リーチング		
		要求の芽生え YES/NOIによる要求 指さし理解	物を介したやりとり 他者意図への気付き 自分への気付き	興味の拡大(聴覚) 特定フレーズへの意味付け 言葉の理解の芽生え	探索的操作 因果関係の理解(触覚) 操作性の高まり	興味の拡大(視覚) 物の永続性 探索的行動 因果関係の理解(視覚)		
7	IV							
10	V	大人の注意を引く 具体物を用いた要求 指さし要求	他者意図の理解 やりとりの拡大 共感性	言語理解	言語表出	視覚・操作等	数量・概念	ADL
		要求の具体化・明確化 言語を伴う要求	社会性の芽生え 共感性の高まり	二語文の理解 質問への応答 動詞・形容詞等の理解	二語文の模倣 発語	空間認知の芽生え 始点と終点の理解 手指の活用	保存の概念 比較の概念	模倣 生活場面等の理解
19	VII							
		自己主張の芽生え 二語文での要求	他の子供への興味 自己意識の芽生え 社会性の高まり	理解語彙の増加 カタコリ概念の芽生え	言葉での要求 二語文等の表出	道具の使用 空間認知の高まり	数・量概念の高まり カタコリ概念の芽生え	見立て・ごっこ遊び 食事・排泄・衣服・清潔等ADLの基礎
24	VIII							

※児童生徒の実態を表すキーワードに網掛けをし、課題を表すキーワードに下線を引いて使用する。

総合的な子ども像

◎コミュニケーション面について
・挨拶などで言葉がけをすると、声を出したり、微笑んだり左手をトントンしたりすることで返答することがあります。授業中は教師や友だちの方を注視したり追視したりして関心を表すこともあります。
・今後も自発的な言動を大切にし、表出を言語化したり、すぐに動作や発声をしなくてもしばらく待つようにして環境や雰囲気的大事にしていきたいと思えます。

◎認知面について
・おもちゃに視線を向けながら、手を伸ばし触れたり握ろうとしたりします。音や声が出た方向に、顔を向けたり眼を向けたりすることもあります。
・初期感覚運動(さまざまな物やおもちゃを触ったり握ったりする)の機会を多くし、好き嫌いの表出や自発的な言動、リーチングなどを促していきたいと考えます。
・机をトントンしたり触ったり握ったりすることは左手ばかりなので、右手や腕、肩回りのストレッチも毎日行うようにします。

*上記、「総合的な子ども像」欄を含むこの様式は、説明用様式として、福山特別支援学校に許可をもらった上で、本校独自に取り組んでいるものである。

高等部 普通課程

3年生

基本情報



《短期目標》

- ・相手に伝わるように要求や気持ちを言葉で表し、適切に行動する。

《長期目標》

- ・見通しを持ち、メリハリをつけて行動する。
- ・自分の思い通りにならない時に適切に行動する。

《保護者の要望》

- ・自傷行為や暴れることがなくなってほしい。
- ・社会のルールを理解できるようになってほしい。

実態把握

- ・食事はかき込む傾向があるので、少量を数回に分けて食べている。
- ・排泄の意思を伝えることができ、便座・小便器を利用して一人でできる。
- ・簡単な選択肢を提示し、それを選ぶことで自分の気持ちを表すことができる。
→「休憩する？授業いく？」など、基本的には2択のものが多い。
- ・次にすることなどを言葉の指示で理解でき、行うことができる。
- ・わからないこと、苦手な時間(終わるタイミングなど)、苦手な音がした時などは不安定になることがある。
- ・友だちや先生の名前を覚え、挨拶と組み合わせて呼びかけることができる。
- ・サングラスや坊主頭に興味がある。
- ・絵本や歌が好き。連絡帳や辞書など、ページをめくる感触を楽しむことが好き。
- ・給食のメニュー表模写などのひらがな・カタカナの読み書きができる。
- ・はしで食事を摂る、醤油さしのキャップ閉めなど巧緻性が高い。

実態把握

- ・イレギュラーな場合は特に見通しを持つことが難しく、時間や活動の切り替えのタイミング、苦手な音がしたとき、自分の思いとは違うことをしなければならないなどがあれば、不安定になることがある。
→大声での泣き叫び、自傷行為、他傷行為など。

- 具体的によくみられるのは、、、
⇒これからなにが始まるのかわからない。
⇒眠たい、疲れている。
⇒辞書を読みたいのに授業に行かなければならない。

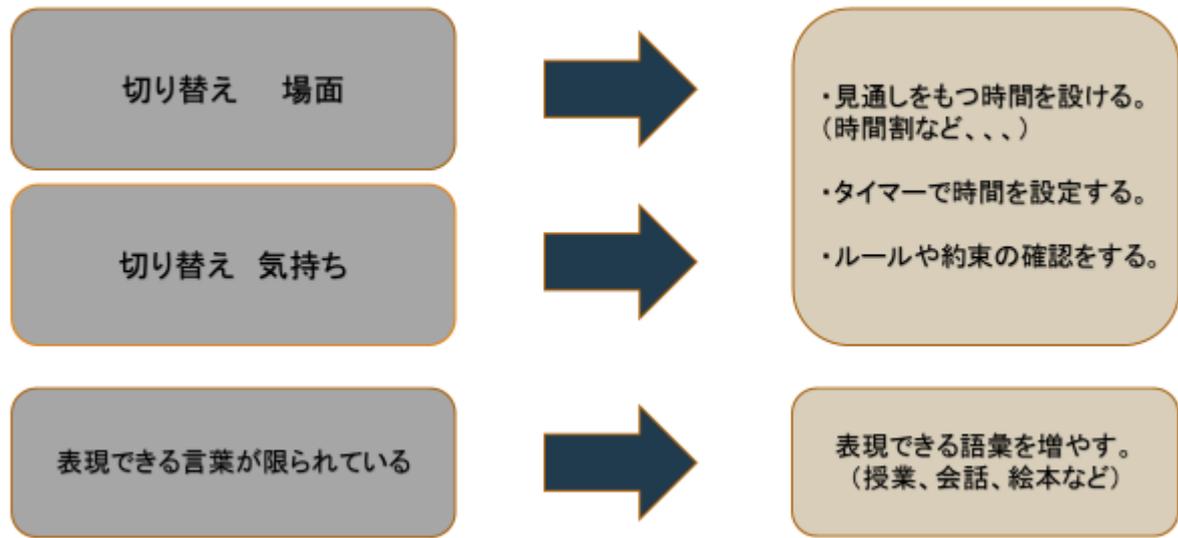
などをきっかけに気持ちが不安定になってしまう。

課題整理シート

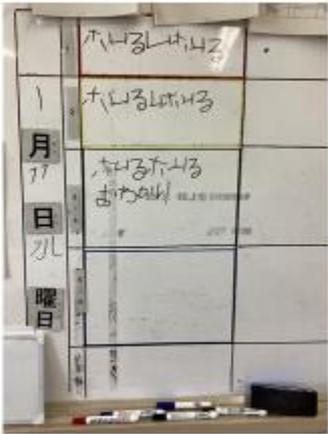
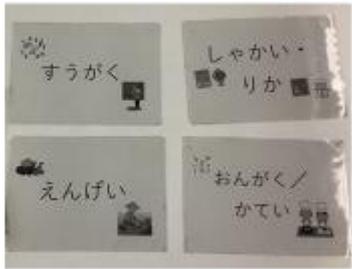
実態把握			仮説	課題と考えられる項目	手立て	
諸検査の記録	[自己調整と社会性] 情動・行動 対人関係		・わからないこと、苦手な時間（終わるタイミングなど）、苦手な音がしたときなど、不安になったり気持ちが荒れることがある。 ・友だちや先生の名前を覚え、あいさつと組み合わせて呼びかけることができる。	・見通しをつかめない ・脱気、環境（暑さ、騒がしさ） ・フラッシュバック	見通し、脱気の対応、環境の整備、気持ちの切り替え。	・メリハリをつける。 →特に多い、自分のためにブランチ、終わる前に聞くなど も試すし、タイマーなどを活用する。 ・得意分野の作成など、得意さを確認する。
	A2支援のための発達アセスメント		<div data-bbox="175 347 454 571" data-label="Figure"> </div>	[ことば] 理解言語・表出言語 次に行うことなどを言葉の指示で理解でき、行うことができる。理解していることは言葉で表すことができる。 [学習] 読み・書き 数量 1～20くらいまでの数唱が可能。1～9程度の数量理解ができる。給食メニュー表を見てそれを模写するなど、ひらがなやかたかなの読み書きができる。曜日の漢字を認める。	表現できる言葉・語彙が限られている。 →伝えたい思いが、、、	自分の気持ちを表現する言葉・語彙・方法を増やす。 ・簡単な問いかけへの返答や選択肢の提示から、語彙の理解を深め、会話の内容を段階的にステップアップできるようにする。
アセスメントシートや諸検査からわかる得意・課題（チャートの凸と凹）			[生活動作] 運動・作業 身辺自立 移動：独歩 食事：自立、普通食 排便：自立（言葉かけが必要） 更衣：自立（言葉かけが必要）	特性や身体の成長に伴う足腰への負担。	体力や筋力を保持する。	・体を大きく動かす運動や歩行する距離を伸ばして、体力や筋力の維持・増進を促す。
得意凸 支援に活かす・伸ばす	身辺自立	表出言語（話す）	その他 特記事項	・辞書などをめくり、その感触を好んでいる。 ・お気に入りの手遊び歌を歌うことが好き。 ・ブランチやバランスボールが好き。		

- ・普段行っている行動観察を基にアセスメントチェックリストを実施。「基礎根拠」として実態を「多面的にみる・共通理解をする」ために「見える化」したもの。
- ・このグラフは身辺自立、情動、注意・多動・衝動、対人関係、理解言語（聞く）、表出言語（話す）、読む、書く、数量、作業、粗大運動からなる。

手立てなど



作成した教材・教具、絵カードなど

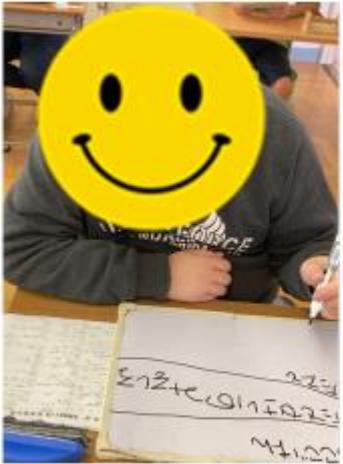


あさ・かえりにすること

時間割カード・ホワイトボード

- ・「あさ・かえりにすること」は生徒本人が自ら表を用意してスケジュール確認として使用している。
- ・時間割表に教員名を入れることでその授業の見通しがつくようにしている。
- ・時間割作成の際は「授業カード」を選んでホワイトボードに貼り付け、作成している。
- ・行事や HR などの授業日ではない場合は写真のように本人が直接記入している。

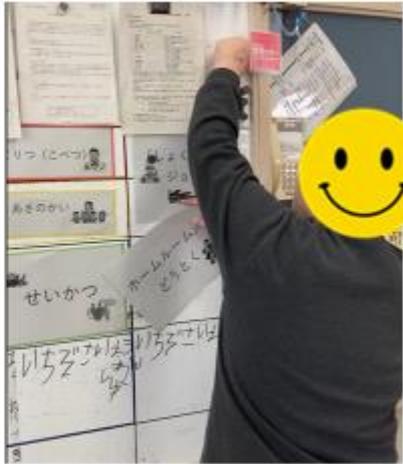
時間割表を作成している様子



給食献立の書き写し



日付・曜日の書き写し



時間割作成

- ・一つずつ、給食のメニュー名を口に出しながら、書き写すことができている。
- ・日付や曜日は、教員に確認しながら書くことができている。
- ・時間割表を参考にカードを選び、並べて、貼り付けている様子。
- ・これらは毎日のルーティンとして取り組みつつクラスの係として取り組んでいる。

経過観察

- ・授業、ルーティーンを自分で確認して、見通しを持つことができた。
- ・気持ちを表現する場面・言葉が増えた。
→「ねんね」、「疲れた」など
- ・タイマーの音に合わせて、次の活動へ切り替えることができた。
- ・時間のメリハリをつけることができた。
→好きなことをする時間、授業の活動に取り組む時間など

今後に向けて、、、

- よく人を見ており、人によってはルールを無視してしまうことがあるため、ルールを徹底して行う必要がある。
☞ その時々の確認方法や、ルールの幅を決めていく。
- 視覚・聴覚優位な面へのアプローチを活用していきたい。
☞ タイマーなら終わりだけでなく始まりのきっかけにも活用。
- 女性教員との関わりを適切なものにしていきたい。
☞ 依存傾向の様子がみられるので、少しずつ適切に。

【報告会より】

- ・2択の質問からはじめ、答えやすいものにする。「次は数学？教室？」など
- ・「苦手なものの始まり、好きなものの終わり」が強調されないようにする。
- ・スケジュール表は教員名や教室を具体的にすることで見通しを持ちやすくする。
- ・関わりを0にするのではなく、手をつなぐ、見守りだけと物理的な距離をあける。

5. おわりに

今回の実践事例検討会では、昨年度と同様に小・中・高等部から児童生徒の事例を挙げ、報告・検討することができた。小学部 児童に関しては、昨年度に報告した児童を今年度も発表することで「アセスメントチェックリスト」を活用した後の活用方法の事例を挙げることができ、中・高等部生徒に関しては中3・高3の生徒を事例に挙げることで、引継ぎを見据えた活用方法の事例を挙げることもできた。

他学部の教員の視点やスーパーバイズの教員の視点など、様々な角度から意見を出し合い、本校におけるよりよい指導・支援をめざした実態把握に関する検討を深めることができた。更には、自立活動支援部だけでなく他分掌の教員が発表や検討会に参加することでより幅のある検討会にすることができた。

アセスメントチェックリストの運用については、チェックの方法が難しい、教員の負担が大きいなどの意見がある一方で、活用することでより具体的な支援の方法や課題、目標設定が見えてくる、授業におけるグループ分けなどにも活用できるなどの前向きな意見もみられた。これらの意見を踏まえてチェックリストを最大限活用するためには、引き続き効率的かつ的確に実態把握を行うことは課題である。

今後の展望として次年度は、今回行ったような実践事例検討会だけでなく、チェックリストを活用する際のワークショップ研修等を通じて、本校教員全体の知識の向上やアセスメントチェックリストの活用方法の定着を図り、本格的な実施に向けての活動を予定している。

大阪府立茨木支援学校

—研究・実践まとめ— いばらき

発行日 令和5年3月31日

発行者 大阪府立茨木支援学校

〒567-0067

大阪府茨木市西福井4丁目5番5号

TEL 072-643-6951(代表) FAX 072-643-2776